

研究の背景・目的

本研究は、2004年に全国に先駆けて北海道から始まった「木育」を広く地域に広めることを目的に、人々の暮らしに「木」を利用・活用する機会があれば、高齢化や担い手不足が著しい林業従事者の構造改善に繋がるのではないかと考えています。

直近5年間は、市内保育園と連携を図り幼少期における体験的・実地的な木育プログラムを考案し、木育を通じた森林・林業に対する理解力を向上させることを目的と定め、3年が経過しました。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策の社会的緩和を受けて、可能な限り園児一人一人が木育を通じた実体験が得られるような内容にすることを活動のポイントとしています。

研究の内容・成果

今年度は、年間を通じた木育の活動を行うにあたり岩見沢市にある社会福祉法人めぐみ学園日の出保育園のご協力をいただき、年長クラス(5歳児)を対象とした計3回の木育を実践しました。

実施するうえで私たちが設定した木育のねらいとして「ぎざぎざのはっぱ」と「まるいのはっぱ」それぞれの違いを学ばせることを決めました。

＜第1回＞

ヒノキ単板の名札づくり&廃材を使った積み木遊び

顔合わせとなる初回は、アイスブレイクを中心に教師役となる高校生との距離感を縮めることを第一に考えたプログラムとしました。製作体験としては、ヒノキ材の単板を活用した名札づくりに挑戦です。この名札は、お互いの自己紹介タイムに使用するだけでなく、今後の木育参加時に必要となるメンバーカード(参加証)としての位置づけに決めたことで、園児が大切にしたいという気持ちづくりに留意しました。



写真1 名札作成の様子



今後の展開

感染症対策を十分に留意しつつ、実施回数をさらに増やし体系的な木育の確立に向けて取り組んでいきます。また、現在は園児に向けた評価法として「お絵描き」を採用していますが、これ以外の方法も実践していくつもりです。空知管内に「木育」が当たり前のツールとして根付くように活動を進めていきます。

＜第2回＞

本校見本林内における色探しとチェーンソーを用いた玉切り作業の見学

2回目の木育では、本校見本林に園児を招き、実際に林内に入りながら体験する木育を通じてたくさんの発見(気づき)を感じてもらうことを目的としています。

体験プログラムの内容としては、公益社団法人日本シエアリングネイチャー協会が開発した学習教材「たんけんルーペ」を活用し、林内にある「色」を探すゲームを行いました。体験前には「森」＝「緑」という意見が多かったものの、実際に時間をかけて林内を丁寧に観察すると、たくさんの色があることに気付くと同時に、葉の違いについても自らの目で確認をすることができました。



写真2 林内探索の様子



写真3 園児との集合写真

その他にも、私たちが園児を目の前にチェーンソーを用いた玉切りを行い、実際に木を切るの意味について実演を交えながら、一緒に自然を考える機会としました。

＜第3回＞

森林クイズと間伐材を用いたペン立てづくり

最終回では、学習の振り返りとしてクイズ形式で自然や樹木について遊びを交えながら学習をしました。その後、本校演習林で出されたトドマツ間伐材を用いたペン立てづくりに挑戦し、最後の仕上げとして自分で選んだドングリや松ぼっくりで装飾を行い、世界に一つだけの作品としました。



写真4 第3回木育の様子